

学校をきれいにしよう

生活指導部 森木園 幸子

今月の生活目標は「学校をきれいにしよう」です。12月になると「今年の汚れは、今年の内に」と良く耳にします。これは、きれいにするだけが目的ではありません。お世話になった物や人に対する感謝の気持ちを表そうという意味もあると思います。1年間の感謝の気持ちを込めて、学校をきれいにしてほしいです。

副校長より

「他人の幸せを尊重できる自分になろう」 副校長 菊原 寛之



11月17日に行われた本校開校140周年記念式典・祝賀会は、多くの皆様方の御支援により盛大に開催することができました。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

午前中に行われた記念式典では、全校児童で「よろこびの言葉」を披露いたしました。御列席の皆様方からは「感動した」「涙が出た」「全校児童の頑張りに心を打たれた」とたくさんのお褒めの言葉を頂戴いたしました。全校児童で140周年をお祝いすることができたこと、御列席の皆様方に感動していただいたことを本当に嬉しく思います。

さて、12月4日（火）から7日（金）は本校の人権尊重週間です。平素の教育活動を通して、子供たちが命の大切さや尊さに気付き、他人への思いやりの心が育まれるように取り組んでまいります。人権とは、「人は誰もがその人らしく生きていくことができる権利」のことです。

しかし、現在も世界のあちこちで、戦争やテロのようなことで、多くの人が死んだり、家族をなくしたりしています。日本でも、毎日のように事故や事件で命を失うなど、悲しい出来事やあってはならないような事件が起こっています。身近なことでは、いじめ、差別、虐待・・・といったことがあります。

顔、体の大きさ、皮膚の色、性格、障害のある人、男の子と女の子など、人は、皆違います。

しかしながら、一人一人には、かけがえのない命があり、その人なりに精一杯生きています。人は皆、人として生きる権利をもっています。自分を大切にすることはもちろんですが、同時に、他の人の命や気持ちも大切にしていかなければなりません。自分の命や体を大事にすると同時に、友達や周りの人のことも大事にしていかなければなりません。

下の作文は、私が担任時に道德の授業で活用した、熊本県に住む小学校3年生が書いた「跳び箱」という作文です。

私は、体育があまり好きではありません。なぜかというと、走るのもあまり速くないし、跳び箱や鉄棒や一輪車など、他の友達ができるのに、私だけなかなかできないのです。それに、みんなから笑われるのが何より悔しくていやだからです。

今日の体育は跳び箱です。準備体操をして、みんな、跳び箱の用意を始めました。私はもう、逃げ出してしまいたい気持ちでいっぱいです。用意ができました。優一郎君から、次々に跳び始めました。いよいよ私の番です。跳んでみるとやっぱり失敗です。2回目も失敗してしまいました。3回目は、友達の跳び方を見て、さっきとちがう跳び方をしてみました。だけど、やっぱり跳べませんでした。何回跳んでもお尻が跳び箱の角に当たってしまいます。

初めは小さく聞こえていた笑い声が、どんどん大きく聞こえてきました。

その時「笑うな！」と、大きな声が聞こえました。一馬君です。体育館が一瞬、シーンと静まり返りました。私もびっくりしました。しばらくすると、「笑ってごめん」とか「がんばれ、がんばれ」「もっと勢いをつけると跳べるよ」とか言うみんなの声が聞こえてきました。私は思いっきり走りました。そして、手を強くつかしました。身体が高く浮いたと思ったその時、私は跳び箱を越えていました。「やったあ、とうとうできたんだ。夢じゃないんだ。跳べたんだ」私はとても信じられませんでした。みんなの拍手が聞こえてきました。

「あなたは笑う人ですか」「笑うなと言う人ですか」「頑張れと応援する人ですか」。是非、御家庭でお子さんと一緒に考えてみていただけると幸いです。

人権尊重週間では、本校の教職員や382人の芝っ子一人一人が「学校は楽しいな」と思う学校にするにはどうしたらよいかを考えるよい機会としていきたいと思えます。